

事業の概要

この事業は、社会福祉法人曙福社会とNPO法人きょうとグリーンファンドが協力して、京都市伏見区醍醐大構町にある「あけぼの保育園」に、市民共同で太陽光発電設備を設置したものです。

事業費はあけぼの保育園の資金のほか、きょうとグリーンファンド「おひさま基金（市民からの寄付）」・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの補助金で賄われました。京のアジェンダ21フォーラム、NPO法人気候ネットワーク、NPO法人環境市民の協力をいただきました。

設置後は、あけぼの保育園、きょうとグリーンファンドが協力して環境学習を進めています。

発電所データ

- * 設置場所：京都市伏見区あけぼの保育園
- * 設置日：2002年2月10日
- * 発電能力：5kW規模
- * 発電量：約5,000kWh/年
- * 総事業費：560万円
- * 寄付額：270件 約250万円
- * 寄付募集期間：2001年11月1日～2002年1月31日

あけぼの保育園の紹介と今後の課題

昭和40年9月、醍醐高畑の地に誕生したあけぼの保育園は、「体験こそ無言の教育」を保育の柱として、醍醐の山々や山科川の自然の中で、体いっぱい自然に親しみ、太陽のあたたかさ、木々のぬくもり、風のかおりなど自然の恵みをうれしく感じる心を育てることを大切に、保育を実践してまいりました。また、設立当初より地域に根ざし、地域に開かれた保育園となれるよう、産休明保育、延長保育、子育て相談などワーキングママの子育て支援にも力を注いでいます。

平成11年4月醍醐地域再開発に伴い、現住所地に移転し、同時に年齢や国籍などに関係なく、だれもが集える施設になることを目指し、保育園の隣地に老人福祉施設ケアハウスも併設いたしました。

“みんな、いっしょ！いっしょ！”を合言葉に、人にやさしい、自然にやさしい施設でありつづきたいと思います。地域の中で誰もが集えるこの保育園から、地域にやさしい環境づくりを提案し、その意義を発信していくことも保育に携わる私どもの役割のひとつではないかと思っています。



■社会福祉法人あけぼの保育園

〒601-1366 京都市伏見区醍醐大構町1番地5
 電話：075-571-0368 FAX：075-572-1054
 E-mail：sun@e-akebono.net
 URL：http://e-akebono.net/

■特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド

〒600-8104 京都市下京区五条通り高倉西入る万寿寺町143 いづつビル6階
 電話/FAX：075-352-9150
 E-mail：grifan@h7.dion.ne.jp
 URL：http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf/

2005年10月発行



2002年2月10日

～人と自然のあしたのために～
**あけぼの保育園に
 おひさま発電所ができてから**



あけぼのソーラープロジェクト

春になり、寒い日もありますが、お天気が続くと初夏のような暑さになります。先日、園児達の描いた絵を見ていたときのことです。可愛く描いた人物の上に太陽が2つありました。担任に聞くとそれを描いた園児は「だってな、おそといたら暑いやろ。だから太陽が2つあんねん。」とお話していたそうです。こんなに暑いのはおひさまが2つあるからだという発想なんですね。おひさま発電所があけぼの保育園に設置されて2年が過ぎました。エコロジーを保育園のお子さん達と一緒に考えるという事は少し難しいことではありますが、わたし達の暮らしに当たり前のことのように使われている電気や、水などはみんな自然からの恵みだということをお子さん達なりに感じてくれているのではないかと思います。5歳児くらいになると、だんだんにこんな会話ができるようになってきます。

保育士「あけぼの保育園のお部屋の電気は何からできていると思う？」→Aちゃん「おひさまが作ってくれている！」

保育士「おひさまががんばってくれているし電気を大切にしないとね」→Bちゃん「してる！節約っていうんだよね！」

お子さんだけではなく保護者の方からも、「うちの会社でも環境問題に取り組むことになりました。」等のお話をお聞きすることもあります。これからはおひさまのパワーによって電気がつくられることだけではなく、みんなが暮らしているこの地球の環境を考え、自然の恵みを大切に育んでいく心も育てていってほしいと思っています。

早いもので、2002年2月あけぼの保育園に2号機が設置されて3年あまりたちました。

おひさま発電所ができてあけぼの保育園がどのように変革していったかを語るのに格好のエピソードがあります。筆者の同僚から聞いた話ですが、「うちの子が通っている保育園は、すごく環境に配慮した夏祭りがあるってびっくり！大学の学園祭よりずうっと環境に配慮していて、大学生を見学に派遣したいぐらい！」。もともとあけぼの保育園は食育や併設ケアハウスとの相互交流などの保育方針で有名でしたが、おひさま発電所設置をきっかけに身近な省エネ問題から、さらには未来を担う園児にふさわしい地球環境問題にもプログラムを発展させてきました。

太陽光発電だけでなく雨水タンクの設置による水の循環や大切さの学習。エコ夏祭りでのごみの減量化では容器のリサイクルからリユースへと進み、とうとう3年目には「ごみゼロ」まで到達してしまいました。活動は園内にとどまらず地域のイベントでも取り組みを紹介するなど、外部にもどんどん発信されています。

これは何よりも園長先生はじめ保育士さんらスタッフの積極的で自己変革的な取り組みによるものです。設備設置というハード面だけではなく、園が地域の環境問題解決の拠点として機能するというソフト面での私たちの期待を、予想を超えて実現しておられるものとして、きょうとグリーンファンドでは高く評価しています。今後ますます地域での環境問題解決の発信基地としての役割を期待してやみません。

環境学習



「なぜ温暖化が問題なの？」環境に関する研修を続けています。



みんなで環境に配慮した買い物をしよう。「野菜はどれを買ったらいい？トイレトーパーは？」

雨水タンク設置



「雨水くんの冒険」を実演。みんなわかったかな～？



いざタンク設置「がんばれお父さん！」みんなで作ったシールも貼りました。



雨水は立派に使われています。植物もぐんぐん育っていますよ。泥団子作りにも一役買っています。



おひさま発電所ができてから

教材づくり



「テレビをつけて寝ていたお父さんのかわりにテレビのスイッチを切ったよ。」で、3つすむ。子どもに大人気のすごろく



環境への配慮を子どもに楽しく伝えられないか。教材づくりのワークショップを開催



「グリーンコンシューマーぼうちゃん」。紙芝居も大人気

保育の中で



雨水タンクを描こう



琵琶湖博物館で環境展示を見学



運動会の「エコ競争」。缶・ペットボトル・トレーの分別→おひさまか雨水のシールをはってゴール！



食育カレンダーやエコしんぶんも作成

夏まつり



パネル設置後、1年目の夏まつり。ごみ減らしに挑戦。リサイクル容器、わりばし、缶のリサイクルによってごみは1/3になりました。



2年目。「リユースカップ」が登場。1年目よりさらにごみを減らすことに成功しました。



3年目、4年目。ごみゼロに挑戦。リターナブル容器、リユースカップ、リユースびんでごみがほとんどなくなりました。

醍醐地域の環境イベントへの参加



水と灯りのシンフォニーで環境紙芝居の上演



醍醐環境フェスタで環境紙芝居の上演



グリーンコンシューマーぼうちゃん

食育



食の安全、食育についても学習会で学んでいます。

第二あけぼの保育園



第二あけぼの保育園でも太陽光パネル、雨水タンクが設置されています。

園児達&保護者の声

園児 「あのな、つかってないこのでんきはけさなあかんねん。おひさまがつくってくれたしな。」
保護者 「夏祭りのゴミの分別は苦労したけれど、親が子に教えられました。子どもの意識も高まっていると思います。」

スタッフの声

「地球のことや食品のことなど知らなかったことをたくさん知ることができました。」
「保護者の方もお子さんも、思ったより興味を持ってくれてうれしいです。」